

意欲的に集団技能を高める球技指導の工夫 －技能差に応じたゲームの提示と戦術学習を取り入れて－

体育・保健体育班 栗田 昌光（中学校教諭）

球技指導の課題

- 元々の個々の技能差が大きすぎて、どの生徒も同じように活動し、意欲や技能を高めることが難しい。
- 課題解決の場で、効果的な作戦や練習内容、ゲームでの動き方などが決められず、個や集団の技能の高まりが見られない。

単元名 ハンドボール（球技） 第2学年 男子

技能差に応じたゲームの提示とグループ編成

- 同じ学習内容の基、技能差に応じた二つの簡易ゲーム〈ゲームA・Bを〉を提示し、生徒がそれぞれを経験し、自分の今もてる力と興味・関心により、ゲームを選択する。
- 兄弟（上位と下位の生徒）チームを編成し、チーム内での練習や教え合い、励まし合いの場を設定する。

ゲームの内容

〈共通〉 攻守交代制

制限エリア

〈ゲームA〉

4対3

〈ゲームB〉

4対4

数的優位を
生かし、攻撃
しやすい

戦術学習と作戦を生かしたゲーム

- ねらい①では、基本的な戦術（カットインプレー、オープン攻撃、ポストプレー、速攻）を毎時間一つずつ学習し、戦術についての理解を深める。ねらい②では、学んだ四つの戦術の中から、チームの特徴を生かせる戦術を選び、作戦や練習を工夫し、ゲームに生かす。
- ゲームでは、ディフェンスの数より多いスペースエリアを用意し、必ずスペースができる状況を作り、空いているスペースを見付けやすくする。また、制限エリアやボーナス得点を設定し、本時に学んだ戦術が生かせるような場やルールを設定する。



制限エリア

戦術を生かすためのオフenseしか入れないエリア

スペースエリア（5～6カ所）

空いているスペースが目印となり、オフenseはエリア内でしかシュートができない

成果

- 技能差に応じたゲームの提示とグループ編成を行うことで、技能の低い、高いにかかわらず、どの生徒も意欲的に取り組み、技能を高めることができた。
- 戦術学習を通して、チームの特徴も基に、具体的な作戦や個々の役割を考えることができた。また、ゲームに作戦を生かす場や特別ルールを取り入れることで、効果的な動き方を考えながら、集団技能を高めることができた。

担当指導主事 義務教育研究係 清水 雅文